

# 28KA-am01

薬学教育における組織学実習の実践

○洲崎 悦子<sup>1</sup>, 豊村 隆男<sup>1</sup>, 小山 真也<sup>1</sup>(<sup>1</sup>就実大薬)

[目的] 臨床的实践力を有する薬剤師養成を目指す 6 年制薬学教育においては、基礎医学的教育の充実が期待され、特に投薬の対象である人体についての知識と理解は必須と考えられる。しかし、薬学領域において人体に関する実習をどの様に行なっていくのがよいのかは検討途上であり、まだ十分な実施はなされていないように感じている。医学部においては人体の肉眼解剖実習と組織学(顕微解剖)実習が平行して行われているが、そのうちで薬学部として独自に実施が容易であり、また薬学の他科目の理解にも直結すると考えられる組織学実習の実施を試みた。

[実施内容] 実習は 2 コマ(90 分) x 4 日間 = 8 コマで行った。実習項目としては、①未知組織切片の染色と同定、②市販組織標本 4 種類の観察、③病理標本 1 種類の観察を行った。各項目について、観察した構造のスケッチとその果たす機能についてまとめたレポート提出を課し、実際の細胞や組織構築を観察することでこれまで学習してきた内容を実感し、その機能についての理解が深まることを目指した。また、実習を行なった学生を対象に、実習内容等についてのアンケートを行った。一方で、本学の教員を対象に、薬学教育の中で人体について学ぶ講義の時間数や実習についてのアンケートも行った。

[結果と考察] 今回実施した組織学実習については学生からも好評を得ることができた。これまで学んだ内容や、現在習っている薬理学の理解に有益であるという意見を多く聞くことができた。教員の意見も肯定的で、薬学領域での組織学実習は受け入れられやすく、教育的にも有効と考えられた。今後はさらに、人体解剖実習見学の必要性や実施状況等、他大学やコメディカル領域での状況を情報収集しながら、薬学領域に最適化された人体に関する実習のあり方を検討していく。